国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

朱雀院ト八先帝名付奉リ

紅葉賀ト巻キメル詞巻中ニ試ミ

十月ヨリ十八日ノ七月ニ

加賀八年ノ補数ノ賀ノ行幸延為也仁明嘉祥三年三月廃帝

仁明後 淳和天皇天長三年十月甲申奉賀太上天皇五十御賀

朱雀院行幸先例 延喜十六年三月七日辛酉行幸 朱雀院有法皇

係光十七年の十月より四年の十月まで五度 詩ありて

朱雀院の 紅葉 賀 は 神無月 の十日あまりなりけり

これなむ 初 なりける

帝國圖書館

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

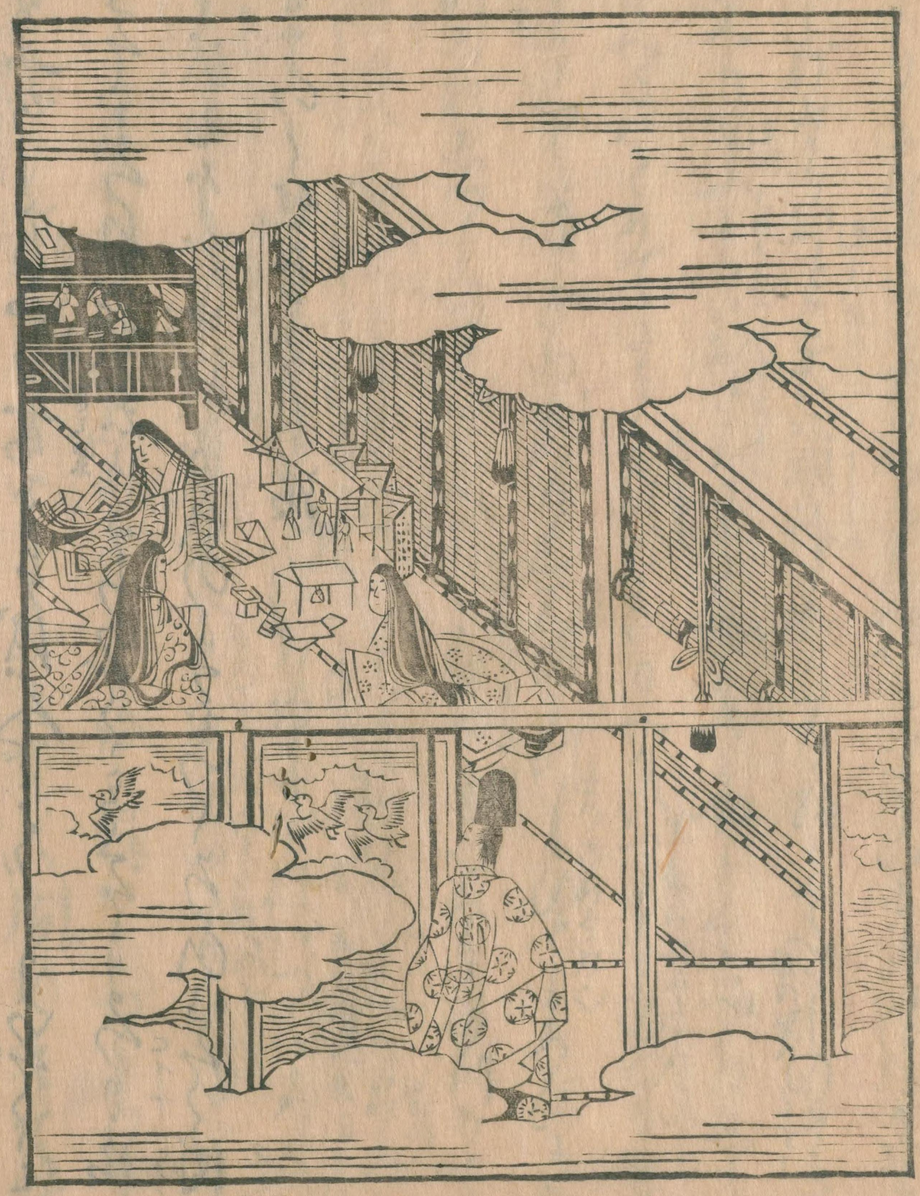
ガラス使用

日くれかゝる程ぞ氣色だゝりうちしぐれ寒
寒のかしこさまへこしつまがかなるよさるいこじ
きすぐるまゝさくの多くうけろひえなるぬをり
ざして。かふいまゝなるさてをつくしたる入あや
の程そぐろざむく。此世のことも覚えず抱えし
かまじきしもべなどのこのもと岩がくれ山の木
の葉まうげもれたるさへ。すうしものゝ心しるはなるゝ
おとしかり。菓香殿のれたしの所のこゝまゐわられ
まて。秋風未まひゆへるなんさしつぎれ見抱なり
けうこれらまおもしろされつきまれば。こしぐ
りめもうけしずかへりうるもこと。ざまりしまや

ありけん。それ東源氏の中将。正三位志なるに。凱中将。正
下のかくいしなるに。かんだちめたちはこれさまゝ。
うぎうりのしまろこびしき給もこの元まひれたまへる
なれば人のめともおどろかし心をおもしろこどもを給
昔の世ゆしげなり。夏はそれこそまゝで給ぬれば
れいのひまもやとうがひありしき給をことまて
ぬけいとのまはさいがれなるに。こしぐれ。菓ぐ
れぞり給てしと二条院まは人むかへたまへり
人の冥れ。それば。いと心づきなしとぬぼくり。うちナキト
うちのゆりさ海はしり給ぞ。ぎもぬぼきんとこと
ちりなれど。心うけくし身例の人のやりようこの

四位正下ノ加階也 正四位ノ下ト云ヲ又カヽイハ加階ト云リ官ヲスヽムヲ賀ノ時
又ハ行幸ナトノ時ノ例なく

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

ぞそどもなるべし。おもてもうつくしげなるさ
れ心をつくしとものしたまひすくすこそまゐり
のまゝとさはらしきもやつれてつゝきいとなるみ
ることしのうへをはじめて出給へとてわきかよはしのすさまして
たまうさくしのするさまは、さらにおびてけりしうる
まそやつりのそれぞれはうちおろしひきつろひゐる
どもなるめだつりのいふ。いとあはれなり。
これはうへんなりしもおほかたさやうの
おりもてなどもてきこえはへとされいまされぬも
侍り。これはさだめたまはれバなんとてぞおほせ
さきなりのふげまさりけるなりしつきさそくはん

なり給はいけるひありさまさてもうちそへん
をいざしいれてさんまずをあしくところ
うまのさんざしまとてもおほろところもあり
さま給ひず内書家一院だうりさて按つかの三條乃
ことやうなるまゐりまゐる。と日にまことをとりて
給ふおほびゆき給まのゆゝしさまでなりまゐり給はん
侍りさ侍りるとも人くめで宮ゆかは。家には来丁のひ
ものより侍ののことてぞのすまつけてもおもほえこと
さげりかりのこれはしのさかするもとうしが心
まとなるさまぞはれいさりともといやく人も給ひきこえて内侍
まもさわれ心まうけどもあるまゝつれなくてうちめ。

源参議 年始ノ為ノ御出ノ更ヌ也元日ノ為ナリ
源葵ノ方ニ上リ給テ也正月二日ナルへシ
形鷲通天ナド名有物有シ也名帯ナドノ事也
昔ノ名アル玉帯ニハ落花
延喜三年三月中ニ清涼殿ニテ文人ヲシテ詩ヲ作リ論セラルヽ事アリ
袍柄赤色ノ袍シ源氏信西ノ行テノ子ハ絶タル事也
ラルへシ四位ノ間ハ瑪瑙帯也

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

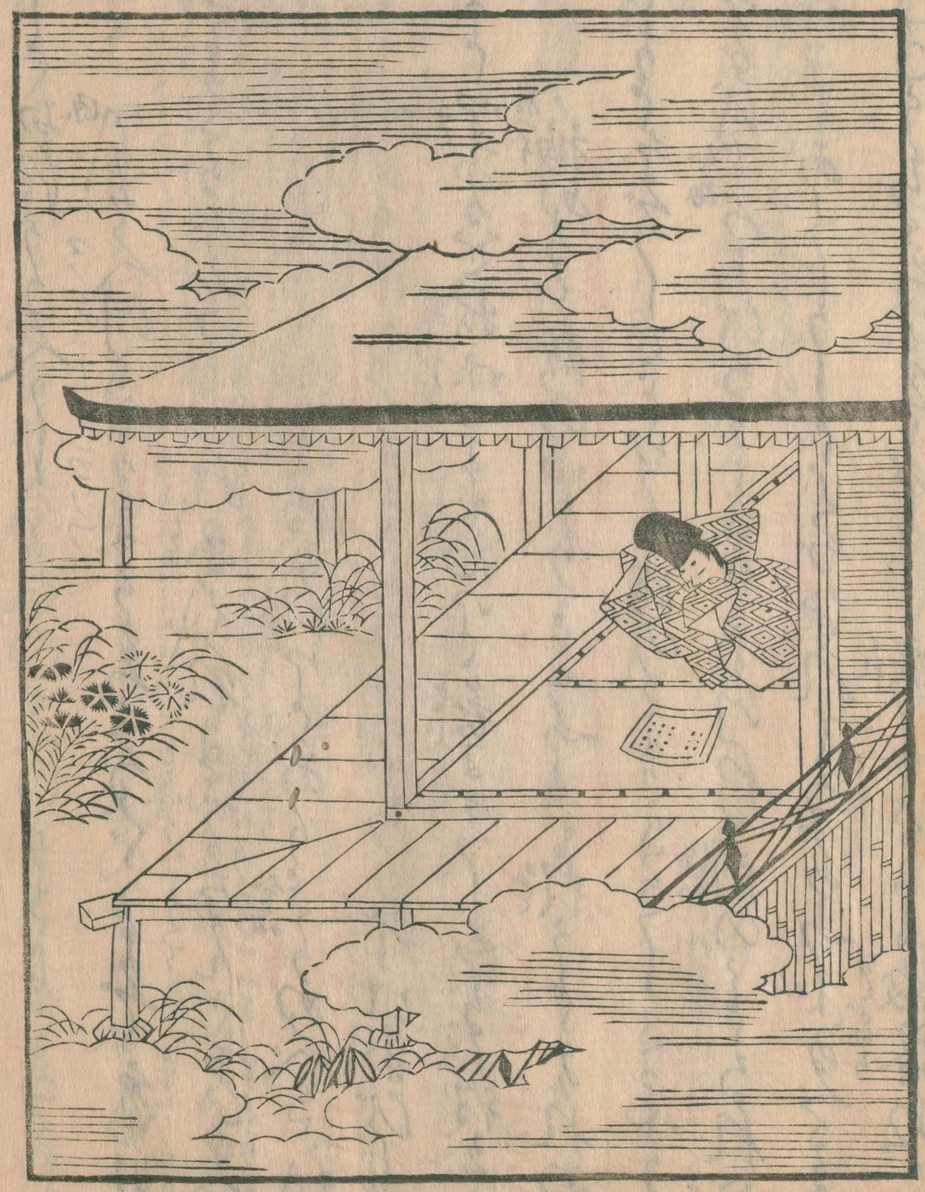
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用



うちされてうしろしあかまくうちうちとくちなれ給

めして此琴とりよせてひかせ給ひ

十ノ緒ヲ中ニ用テ

琴ハ中七ヨそとのうへがうちうちとて一ヨリ

云是ハ一ヨリ七五フトシハ九十五中ノ緒ト為中ヲホソシト云也如是院ノ流ニハ

笛ハ長保樂 大食調 右樂 破 保曾呂倶世利

恙賀利応須 樂目録ニハホソロクセリ 別ヤスト書リ 保曾呂倶世利笛ノ曲ニヤ

なまふとおぼしほそろくとりといふ物ハ此ハいまく

なれどおもしろうふきとまりしまへるまふきあハ

せまぐわなれど指子しぶりぶよ手めきたり おほと

なぶらまいりて急どもなどのもんずるよいでまぜ

しと何りつれば人ぐこはづくり咲て毎ふり侍ぬ

べしなどいふよ姫ぶ例の心ばそくてくしまへり

急もこさしてうしぶしておいとれば いとらしく

てれぐしのいとめでたくこゑれかうしるをうき

なぞ和なるほどハ悪しくやあるとのたまへバ

なつきまふ我もひとひもこそ秘一日不見如三秋

くるしうこそされどおさるくおかするほどハこころや

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

老らか内侍のすけ人もやんごとなく心ばせありて
あてにおぼえたかくはありながらいみじうあだめ
いたる心ざまにてそなたにはおもからぬあるを
かうさだすぐるまでなどさしもみだるらんといぶ
かしくおぼしければたはぶれごといひふれて
心みたまふににげなくもおもはざりけるあさまし
とおぼしながらさすがにかゝるもをかしうて物など
のたまひてけれど人のもりきかんもふるめかしきほど
なればつれなくもてなし給へるを女はいと
つらしと思へりうへのみけづりぐしにさぶらひける
をはてにければうへはみうちきの人めしていでさせ
給ひぬるほどに又人もなくてこの内侍つねよりも
きよげにやうだいかしらつきなまめきてさうぞ
くありさまいとはなやかにこのましげにみゆるを
さもふりがたうもと心づきなく見給ふものから
いかゞおもふらんとさすがにすぐしがたくてものすそを
引おどろかし給へればかはほりのえならずゑがきたるを
さしかくしてみかへりたるまみいたうみの
べたれど目皮らいたくくろみおちいりていみじう
はつれそゝけたり

源ノイカナリトモ似合ヌコトモアラジ
誠ニハ乱レゴト不審ニオボシテ戯レシテ
ソメ給ツルニテハアルマジキトヽ
源ノサブラヌ白ハヤテヽ
カミナトスカセ竹フトスヱ
ミウチキトハキヌノナシヨ云之
戯コトナルヘ
源内侍ノスケ
扇ノ異名也
蝙蝠ヲミテ扇ヲ作リ初ケル也
檜扇ニアラス
目皮
文選
今案ニ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

温明殿 古秘遠日第 十代崇神天皇ノ… 禁秘抄云 垂仁天皇ノ御宇始為別殿 御温明殿 白川院御宇内侍所神鏡飛出天欲上ニ 女官懸唐衣袖奉引留 依此因縁女官守護之 温明殿ハ神鏡始テ別殿ニ遷リアハシマス時ノ御殿トニ 又内侍所トモ賢所トモ申奉ル 内侍所トハ神鏡ノオハシマス御殿ニ必内侍ヲ… 白川院ノ勅諚ノ如ク 近代オハシマス春興殿也 …内侍所ト申… 鏡ト別殿ニオハシマス… 崇神天皇ヨリノ事 古語拾遺ニ見エタリ 是天正説トスヘシ 職原抄ニモ載ナリ

源ノ宗ねらふ…

うちさうぞき… 温明殿のわたりをたゝずみありき給へば 此内侍びはをいとをかしうひきゐたり 御前（御前ノ御遊ビニナド…）などにても男方の御あそびにまじりなどしてことにまさる人なき上手なれば ものゝうらめしうおぼえけるおりからいとあはれにきこゆ

催馬楽 呂哥 山城

[illegible]

うりつくりになりやしなましと こゑはいとをかしうてうたふぞすこし心づきなき

鄂州にありけん昔の人もかくやおかしかりけんとみゝとまりてきゝ給ふ ひきやみて…

鄂州ノ女ノウタフヲ楽天ノ聞シ事… 五十七八ノ女ニ心シハカケスシテノウタフヲ聞タル事一説…

[illegible]

かしこき人… 琵琶何ヲ説キ… 各可随所好

鄂州之事 長慶集巻之十 白氏文集

夜聞歌者宿鄂州

夜泊鸚鵡洲 江秋月澄澈 隣船有歌者 發調堪愁絶 歌罷継以泣 泣聲通復咽 尋聲見其人 有婦顔如雪 獨倚帆檣立 娉婷十七八 夜涙如真珠 双々随明月 借問誰家婦 歌泣何凄切 一問一霑襟 低眉終不説

文君事 史記曰 是時卓王孫有女文君新寡 好音 故相如繆與令相重 而以琴心挑之 相如之臨卭 従車騎 雍容閑雅甚都 及飲卓氏 弄琴 文君竊従戸窺之 心悦而好之 恐不得當也 既罷 相如乃使人重賜文君侍者通殷勤 文君夜亡奔相如

案之 鄂州叶於物語意歟 源内侍哥ハいとおかしくて…

[illegible]

たちぬるゝ人しもあらじあづまやにうたてもかゝる雨そゝぎかな

といひかけて是もめづらしき心ちぞする…

温明殿 古秘抄曰 第十代崇神天皇ノ 禁中ニ 垂仁天皇ノ 御宇 始為ニ別殿 御温明殿 白川院ノ御代 内侍所神鏡飛出 女官懸ニ唐衣袖ヲ奉引留 依此因縁 女官守護ス 温明殿ハ神鏡ヲ安置ス 別殿ニ遷リ アハシマス時ノ御殿トミ

源氏の君はえしりたまはず見つけきこえてはまづうらみきこゆるを

いと久しうなりにけるをゆふだちして

なごりすゞしき宵のまぎれに温明殿のわたりを

是ハ中ノ重ノ東ノ方ニアル殿

うたひてより給へるにおしひらいてきませと

うちそへたるも例にたがひたる心ちぞする

立ぬるゝ人しもあらじあづまやに

うたてもかゝる雨そゝきかなとうちなげくを我ひとり

しもきゝおふまじけれどうとましや何ごとを

かくまではとおぼゆ

人づまはあなわづらはしあづまやのまやの

あまりもなれじとぞおもふとてうちすぎなまほし

けれどあまりはしたなくやと思ひかへして

人にしたがへばすこしはやりかなるたはぶれごとな

どいひかはして是もめづらしき心ちぞしたまふ頭中将

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

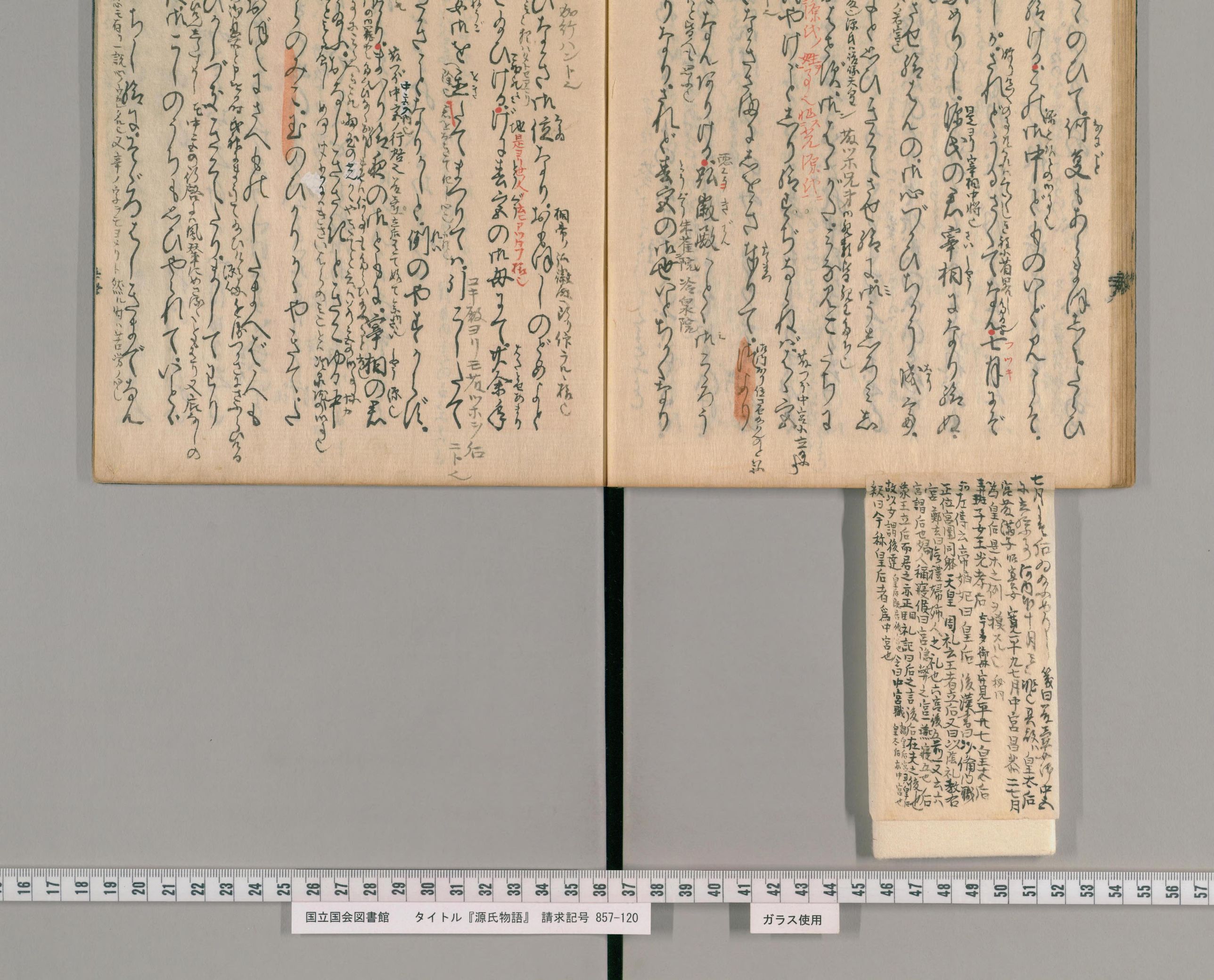
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

べきさくざりとくのひて何事もあらまほしくこそひ
てぞおはしけるを、かの中にものゝひどくなんして。
おぼしけりしが、されどうるさくてなん七月まで
后ゐ給ふめりし。源氏の君宰相になり給ひぬ。
みかどおりゐさせ給はんの御心づかひちかう成給ふ。
此若宮を坊にとおもひきこえさせ給ふにお
ほんうしろみし給ふべき人おはせず。御はゝかたみな
みこたちにて、源氏のおほやけごとしり給ふすぢならねば、
母宮をだにうごきなきさまにしおき奉りて
つよりにとなんありける。弘徽殿いとゞ御心うごき
給ふことわりなり。されど春宮の御世いとちかうなりぬれば、
うたがひなき御位なり。おもほしのどめよとぞ
聞えさせ給ひける。げに春宮の御母にて廿余年
になり給へる女御をおき奉りてはひきこし
奉り給ひがたき事なりかしと、例のやすからず
世人もきこえけり。まいり給ふ夜の御供に宰相の君
もつかうまつり給ふ。おなじ宮と聞ゆる中にも
きさいばらのみこ玉ひかりかゞやきて
たぐひなき御おぼえにさへものし給へば、人も
いとことに思ひかしづききこえたり。まして
わりなき心には御こしのうちもおもひやられて、いとゞ
およびなき心ちにすゞろはしきまでなん
とのびたまふちしおなじくろもしこそすのでなん



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

857
120

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用